



川口市立在家中中学校 川口市大字安行領在家272番地  
048(295)4102 FAX 048(295)5661  
URL <https://zaike-j-kawaguchi-saitama.edumap.jp/>



・心身ともにたくましい生徒  
・自ら進んで学ぶ生徒  
・豊かな情操を培う生徒

## 互いに補う関係づくり

校長 鈴木 玲

6月1日には今年度の体育祭が開催されます。今回の体育祭に向けた全体練習の初日、全校生徒にこんな話をしました。

「体育祭、苦手だな、嫌だなんていう人もいるでしょう。そういう人のことを、ぜひ得意な人がカバーしてあげてください。そして、苦手だな、嫌だなんて思う人も自分ができることは全力でやってください。競技だけじゃなく、行進や開閉会式の歌、応援、係活動など。カバーしてもらった分、できること、やるべきことは精一杯やって、全員の力で体育祭を創り、成功させてください。」

集団の中ではそれぞれがそれぞれの得意な分野で力を発揮し、苦手な人の分まで補っていることはよくあるものです。日頃から自分でも気づかないうちに他者の手助けをしていたりするもので、それでも自分が得意なことをしている時にはそれも苦になりません。このような助け合いが、集団で生活することの意義の一つではないかと思えます。

本校の長年の重点課題の一つとして『不登校対策』があります。中でも近年は『不登校生徒への支援』に重きを置こうという考えですが、やはり不登校の「未然防止」や「学校復帰・教室復帰」のための対策を講じなくてはなりません。今、学校へ足が向かない生徒の中には、自分が集団で生活することの避けたい部分やデメリットとなる点ばかりを思い浮かべてしまい、集団でいることの良い点、自分にとってメリットになることを理解していない人も意外と多いのではないのでしょうか。

クラスや学年、部活動の中で自分の得意分野に力を発揮し、それが仲間のためになれば、本来周りから感謝されるはずのことも、登校せずに一人でそのことに力を注いでいると「自分の好きなことだけやって」と悪く捉えられてしまう可能性があります。また、自分の将来に生かせるからと豊かな知識と高い技術を身に付けることは大切ですが、自分一人のものにするのではなく、少しでもその力を貸して欲しいと思っている仲間は、実は学校の中に何人もいたりするものです。

反対に、苦手なことも集団の中では誰かが補ってくれるかもしれないのに、一人で悩み、そのうち手を付けなくなってしまう、やがて苦手なことを避け、「やらない」という選択肢ばかりを選ぶことが癖ようになってしまったりします。いつか自分の周りを見渡して「やっていないこと」「やれないこと」が増えたことに気付くと「自分はどうせダメな人間なんだ」と今までできていた活動でさえストップさせてしまう人も出てくるのではないのでしょうか。周りに人がいれば誰かがやり方を教えてくれたり代わりにやってくれたりしたかもしれないのに。

集団の中にいることがあまりにもつらく、登校しないことを選ぶこともあるのは今や当然のことです。自分の体を傷つけたり心身が壊れてしまったりするぐらいなら集団の中にいる意味はありません。しかし、集団の中にいることで自分のつらさを軽減できることもあるのです。そのことに気付かせてあげることが子どもたちの周りにはいる大人、学校と家庭が積極的にやらなければいけない役割の一つだと感じ、日頃から声をかけ続けたいと思いました。



体育祭前、リレーのバトン練習をする生徒たち